

ロータリー:
変化をもたらすRotary Making A Difference
RI会長 RI ライズリーま
る
が
め

週報

会員数 59 名

欠 席 者

訪 問 者

前々回出席率

出席者40名・欠席者17名・免除会員2名

天野・麻田・後藤・稲田・和泉享・加内・岸上・眞鍋・松山・森・森高
中野昌・崎川・四宮・菅・橘・竹内・富田-会員

75.86%(1/25)

2018.2.10
Vol.55
№28
(2692)

MARUGAME ROTARY CLUB WEEKLY

会 長 夏見 良宏
幹 事 和泉 清憲
会報委員長 塩田 等

お知らせ

2月のプログラム

- 1 (No.1)-新入会員歓迎会
- 10 (No.2)-特別講演会
- 15 (No.3)-IM報告
- 22 (No.4)-クラブフォーラム

他RC例会変更

丸亀東 2/13親睦ホウリング大会
2/20RI創立記念夜間例会

ニコニコBOX;なし

<ニコニコ会計累積/¥313,000>

がんばるBOX;なし

<がんばる会計累積/¥247,310>

■例会事業;55周年特別講演会

丸亀市猪熊弦一郎現代美術館2階ミュージアムホールにおいて丸亀商工会議所の後援をいただき、当クラブ主催によって13:30より、Business Seminar特別講演会「縮小する日本」を開催した。講師にはトヨタ自動車株式会社顧問石坂芳男氏をお迎えし、少子高齢化をむかえた日本の課題、これからの時代を生きぬく経営、トヨタの経営についてなど、大変興味深いお話を伺うことができた。石坂氏はトヨタ自動車株式会社元副社長であり、販売部門のトップであったが、現在も国立大学法人一橋大学理事、武蔵野学院大学客員教授、米メディシノバ社 (MediciNova, Inc.) 取締役、一般社団法人未来を創る財団代表理事などの要職をつとめられており、大変多忙な中での講演会が実現したもので、会場となったミュージアムホールには多くの聴講者が訪れた。



2015年の国勢調査によると、調査開始以来、日本の総人口が初めて減少に転じたことが明らかになった。これから日本は、前例のない急激な人口減少に突入し、2020年には、東京でさえも人口が減少に転じると考えられている。また、2025年には団塊の世代が後期高齢者になって超高齢化社会へ突入する。医療・介護・福祉サービスの整備が急務である一方、社会保障財政の崩壊の懸念が提示されている。更に社会保障・人口問題研究所の推計によると、2053年には日本の人口は1億を切り、2065年には8088万人になるという。そのような縮小する日本では、人口増加を前提にしてきた社会システムを見直し、縮小していく必要に迫られる。日本では生まれ育った地域や土地に強い拘りをもつメンタリティがあるが、今後はこれまでとは異なった考え方の生き方や働き方を実践し、痛みを伴う「撤退戦」にのぞまざるを得ないだろう。具体的には「住」の集約、生涯現役の働き方、外国人の積極的な受け入れ、モノからコトへの価値観の変換、所有からシェアといったことが必要である。急激に進歩するAIの活用には希望もあるがその実用化を待つのでは対応が間に合わないであろう。

トヨタでの経験で重要であったことはカスタマーファーストの考え方を徹底したことであった。マーケティングは実際に顧客の中に入っていかなければ出来ないものである。また生産においてはノウハウの部分において暗黙知を明示知にするということが重要であった。グローバルゼーションの中で、「カイゼン」は生産においては日本発で世界に発信していったが、販売においてはそれぞれの地域においての特徴があるため、それぞれの地域に合わせた対応が必要であった。

(裏へ続く)

例会場・事務局

丸亀市塩飽町50-3 丸亀プラザホテル内

2018.2.10

Vol.55

No28

(2692)

質疑応答

- ・普段よりレクサスを愛用しており品質には満足しているがデザインをもっと個性的にできないか。
デザインについては難しいものがあるが、現在のトヨタではスピンドルグリルという共通のデザインを取り入れてイメージの統一をはかっているところである。
- ・住の集約などの必要性は理解出来るが、住民の土地への愛着や権利などもあってなかなか実現が難しいのではないか。
特に日本ではそのようなメンタリティが強く、住み慣れた家土地で最後までと言う考え方は根強いが、現実はそのような猶予を許さない状況である。夕張市などでは徐々にそのような実践を行っているようである。
- ・これまでの経験で印象に残る失敗があればお聞かせいただきたい。
アメリカ時代に販促のキャンペーンを行うとき都会的なキャッチフレーズを採用したのだが、地方ではまったく受けず、地域に合わせた対応が必要であると痛感した。
- ・縮小する社会への対応は大変困難であると思うが、その中で实际的に特に重視しなくてはならないものは何か？
「撤退戦」には痛みを伴うもので大変にむずかしいが、働き方においてフルリアタイムメントの考え方は捨てなければならないだろう。高齢者になっても職種を変えてなんらかの仕事を持つことが必要だと考える。